

国際物流インフラとしての 関西国際空港への期待



松下電器産業株式会社 代表取締役専務 **福島 伸一**

日本経済は、サブプライムローン問題に端を発した米国経済の減速、原油価格高騰などの影響から先行きが不透明な状況となっています。一方、関西経済は景況感がやや悪化はしていますが、製造業を中心とした設備投資の増加や、堅調な中国・アジアへの輸出を背景に、底堅い動きが続いております。

さて、まもなく北京オリンピックが開催されます。過去から夏季オリンピックの年には、世界のテレビ市場の需要は増加しており、今年度も1億1千万台の需要が見込まれています。世界の薄型テレビ市場に向けて、当社は尼崎のプラズマパネル工場をはじめ、2010年に稼働予定の姫路・液晶新工場など、世界需要に対応した生産体制の強化を進めています。また、堺の臨海部では、シャープさんが液晶テレビ用パネル新工場の建設を進められており、関西のベイエリアは世界的な薄型テレビ関連産業の集積地へと変貌しつつあります。今や「パネルベイ」とも言われ、関西経済活性化の一端を担っています。これらのパネルを世界の生産拠点・市場へ迅速かつ効率的にお届けするには、国際物流機能がますます重要となってまいります。

また、当社では成長戦略の柱として、海外市場への大増販に取り組んでいます。経済発展が著しいBRICsなど新興国への薄型テレビをはじめとしたデジタルAV商品の投入や、省エネ技術や静音技術を活かした冷蔵庫・洗濯機など白物家電の欧州投入など、今後さらに市場

展開を加速してまいります。このようなグローバル市場展開においては、早期の市場立上げ・現地生産へのタイムリーな製品・部材供給をいかに行なえるかがキーとなります。加えて、ライフサイクルの短い商品群の戦略的推進のため、航空機による直送体制を前提としたビジネスを展開している例も増えつつあります。

昨年、関西空港が国内初の24時間空港化、第2滑走路オープンと空港機能を充実されたことは、リードタイム・コストの両面から活用メリットは大きく、関西の各企業にとっても、まさに中国・アジアとのゲートウェイであり、海外事業戦略・国際物流の要ともいえます。

さらに税関対応を含めた24時間365日オペレーションの強化、貨物便の増便やコスト低減、航空代理店との協業によるサービス提供等により国際競争力を高めることが、中国・アジアの貨物ハブ機能としての地位向上につながるものと確信いたしております。まさに現代の経営はスピードとの戦いであり、関西空港の役割はますます重要になってまいります。

また、国内物流と国際物流を機能的にリンクさせる高速道路の空港への広域アクセス良化は、言うまでもありません。国、自治体など関係機関の取組みを、さらに加速させていただきたいと思っております。

今後さらなる国際物流インフラとしての関西空港の発展を大いに期待しております。